

令和7年度 第1回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

1 日 時

令和7年6月17日（火） 午前10時から12時まで

2 場 所

駿河区役所 3階 大会議室

3 出 席 者

（委員）岸山委員、石野委員、池ヶ谷委員、朝比奈委員、沼尻委員、土屋委員、望月委員

（欠席）鈴木委員

（駿河区地域包括支援センター）7地域包括支援センター

4 事 務 局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係

保健福祉長寿局 地域支え合い推進部 地域包括ケア推進課 地域支援係

保健福祉長寿局 地域支え合い推進部 安心感がある温かい社会推進課 終活支援係

5 傍 聽 者

3人

6 意見交換及び情報交換（司会及び進行は岸山部会長により実施）

（1）各地域包括支援センターから令和7年度の事業計画について報告及び意見交換

別紙 各地域包括支援センター事業計画書、部会シート参照

（2）委員から質疑・助言等

＜八幡山包括支援センター＞

包括：

重点項目一つ目は、従来通り相談者や支援者が必要と思われる高齢者の意思や生活状況をアセメントし、相談内容に合わせた自己決定に基づいた機関や制度、地域資源に繋げていけるよう支援をする。

二つ目の総合相談支援、包括的・継続的ケアマネジメント支援、在宅医療等との連携、生活支援体制整備事業については、「自宅でずっと」や「居場所」の実践ができる地域づくりのため、制度の利用や地域資源の利用・開発が行えるようケア会議を開催する。総合相談などから地域の問題点を抽出し、ケア会議で解決に向けた対応を検討する。併せて地域での活動の過程や結果を評価し、実施者と共有する。

三つ目は、地域住民やケアマネジャー、関係機関が連携し、課題分析や役割分担、評価が行えるようにケア会議や情報交換の場を設ける。圏域内の「居場所」や相談場所を兼ねた認知症予防、フレイル予防の講座などを開催する。

数年前に森下地区で徘徊認知症高齢者の搜索模擬訓練を行い、参加者が約100名来た際の印象が地域の方たちにかなり根付き、認知症の方との接し方を再確認したいという要望があった。かけこまちや社協などと連携して、認知症の相談会や体験会を開催したいと考えている。昨年から、森下地区全体で11月後半に収穫祭を始めているため、12月以降に認知症の体験会を開催したいと考えている。昨年富士見地区も、社協とかけこまちの協力を得て一時間の相談会を行った。相談者は4名、体験会が約10数名と1時間の中でも来た方は多く、そこから相談が爆発的に増えた。今まで富士見地区はプライドが高く相談がなかった地区だったが、一気に相談があり、最近は認知症、フレイル、虚弱の方の相談が増加している。このような状況を地域の住民や民生委員も実感しているため、今年も11月ぐらいに行う予定で、社協、かけこまち、協力してくれる医療機関を探している。短時間で相談会を行っていく予定で今後周知をしていきたい。相談会の中でも認知症だけでなく、フレイル予防を含めながら行っていきたい。このような活動をしたときの地域の方たちの反応は非常に良いため、今後も継続して続けていきたい。圏域内で大規模で集まれる場所がないことが課題点となる。静岡ガスと、サービス付き高齢者住宅等で開催し、なるべく人が集まりやすい場所で開催ができればよいと考えている。

池ヶ谷委員：

富士見地区はなかなか相談をしてくれる地域ではなかったが、1時間の相談会を行ったことによって、相談者がすごく増え、認知もされ、垣根が低くなったという捉え方でよいか。また、企画は社協やかけこまちという話があったが、民生委員も入っているのか。

包括：

なかなか難しい地区で、前年度は最終的に民生委員さんも関わっていただき、運営を一緒に行つた。企画段階では社協と包括が動き、会場の確保は民生委員や自治会にお願いした。

池ヶ谷委員：

民生委員もどうしたらいいのかと思っていたのではないかと思った。企画の方も民生委員を巻き込みながら行ってもらえばと思う。

包括：

今回も民生委員が、次にいつ行うのかと話している。民生委員と自治会の働きかけがあつてのことで、地域の声から実施することを検討している。

池ヶ谷委員：

民生委員もとても力強く、この成果に驚いていたと思う。ありがたく継続しながら、地域の見守りを民生委員としても続けていきたいと思う。

石野委員：

すごくすばらしい取り組みだと思う。フレイルや認知症について、地域の方から要望があがって初めて計画ができたと思う。

かけこまちや社協に認知症やフレイルの報告、情報提供はいただいているのか。私たちはリハビリ専門職で、身体的なフレイルは理学療法士に任せて、認知症は作業療法士の分野となる。認知症の方との接し方の講座など協力できることがあると思う。静岡市内には、静岡県域地域リハビリーション広域支援センターとして、静岡リハビリテーション病院の地域リハビリテーションセンター、駿河区では済生会病院と白萩病院がリハビリテーション支援センターとして、リハ職派遣の窓口になっているため是非活用していただければと思う。

<大谷久能地域包括支援センター>

包括：

今年の重点的な活動は大きく3点ある。一つ目は地域住民による『見守り隊』活動を通し、情報集約のための連携。二つ目は防災をPRしながらネットワークを構築する。三つ目は介護予防を目的とした活動と参加・交流の場の創設。

一つ目の『見守り隊』の普及は、当圏域において地域住民、民児協、地区社協、自治会等が協力し、地域の見守り活動に取り組んでいる。前身を含めて15年近く継続している活動となる。この活動により、地域住民の緊急時の早期発見、早期対応が可能となっているため、今後も住民の力、アンテナ、パイプ役となることを活かして活動を展開していきたいと考えている。さらにその裾野が広がるように、地域に力添えとなるよう展開をしていきたい。

二つ目の多職種連携については、これまでの連携を継続することになるが、今年度は防災をテーマに多職種連携に取り組みたいと考えている。普段の見守りの延長線上に災害時の見守り連携があるのではないかということで、多職種と地域住民を連携させた取り組みに発展させていきたいと考えている。防災のキーワードは、課題共有をしていく。来年度、再来年度に続くきっかけづくりをしていきたいと考えている。

三つ目の介護予防を目的とした活動参加については、防災活動の延長として昨年度『地域支え合いマップ』を作った。地域の介護予防の場、交流の場が30か所集約されていて、自分の目的に合った活動参加を自分で選びながらできる。このような活動を深めながら、さらなる新たな世代への呼びかけによって介護予防を促進し、介護予防の意識を高めていきたいと考えている。

包括としては、圏域内に駐在所がなくなり、郵便局の閉鎖、来年度小学校が統廃合される等の地域としての課題がある。大谷地区と久能地区が一地区としての意識を高めることになるかと思うため、一体感の調整に取り組んでいきたいと思う。この計画を達成させるためには、三職種三人体制を整えることが大前提であると考えている。

岸山部会長：

支え合いマップで目的に合った事業に参加という話があったが、どのような事業を行っているのか。

包括：

こちらのマップは私たちが主体として行っている事業というよりは、地域住民が主体となって行っている活動となる。私的な活動、地域で行っている様々な教室、あるいは自分達で行っているグループなどをまとめてある。

岸山会長：

地域の皆さんがやっている事業を一つにまとめたマップをしている。自分が行きたいもの、自分に合ったところを自分で見つけていく。地区でやっていても分からぬことがたくさんあるため、すごくいい取り組みだと思う。

土屋委員：

見守り隊は、始めはケアマネを中心になって動いてくださることで地域住民の方は心強いと思う地域的に、買い物が不便なところがあると思うが、そのような支援はあるか。

包括：

買い物支援は駿府葵会（法人）が連携している。デイサービスの送迎の車両が空いている時間に地域の高齢者の買い物支援を行っている。本来自分で行ける人がこれに頼ってしまうことにならないよう、民生委員や自治会で話し合い、包括でも対象者を絞り込んで行っている。

石野委員：

人材不足の中、すごい活動をされていると思う。支え合いマップの30ヶ所の繋ぎ方は、地域住民がマップを見て自分で動くのか、誰かが間に入ってから動くのか教えてほしい。

包括：

自分でマップを見て連絡を取る方もいる。民生委員や包括、ケアマネが訪問した際にこの方には必要だと判断した場合、近くを紹介することもあり、相手の状況状態に合わせて使っている。

石野委員：

先ほどの買い物支援だが、送迎車を実際運転するのは地域住民の方か。

包括：

法人側の地域貢献事業で、法人のドライバーが運転する。その地区の民生委員が同乗して買い物は一緒にもらっている。費用として100円徴収している。

<長田地域包括支援センター>

包括：

重点項目一点目は「地域ぐるみで支え合えるシームレスな支援体制構築」、二点目は「三職種の連携と協働による相談対応力の向上と地域ネットワークの拡充」となる。

一点目は、長田地区と、長田東、川原、南の3学区で、地域包括ケアシステムに関わる機関に集まっていたとき、ネットワーク会議を各1回行っている。当初は年2回程度行っていた。各地区社協で同じようなネットワーク会議を年3回行っているため、その中の1回を包括が主催で行うことで3回としている。1回目を行った地域の中で、各地区社協で課題が出ているところは、各機関とのネットワークの強化が課題にあがっていた。例えば、ゴミ出しの支援を行ったが自宅に対象者がいないことがあった。最終的にはショートステイを利用していたことが判明したが、ボランティア

に行った方が対象者のケアマネが誰なのか分からず、把握するまでに時間がかかってしまった。このようなことから、各機関で連携を取りながらより密で親密な支援が構築できるような体制を目指してサービス検討していきたいと考えている。

二点目は、ネットワーク会議等で、包括を活用していただき、より相談を広げるような形で相談数が年々右肩上がりとなっており、長田は年間 6,000 件程度増加している。昨年度半年間ほど、包括職員の定員が 1 名欠けていたが、令和 5 年度よりも令和 6 年度のほうが相談数が多くなった。今年度は職員が半数ほど入れ替わっているため、基本的に立ち返り毎月事例検討を行い、事例検討を通して地域の特性を把握する。地域の課題を背景に検討しながら、より相談力の向上を目指していく。また、地域のネットワークの中には地区で行われているお祭りや体育行事などでより多くの方々に包括支援センターのPRを行っていきたいと思う。

池ヶ谷委員：

民生委員の立場として、「長田東地区は困ったときは包括」という合言葉があるように、包括が本当に身近になっている。民生委員はボランティアのため知識が決して豊富ではなく、専門職ではない。専門的なことは何もわからないが、身近にいるため困った相談を受ける。そこで民生委員も困ったときに年齢を問わず、包括にどこに繋いだらいいのか相談をしている状況。包括がとても力強く心強く、民生委員活動を行っていると感じる。

岸山部会長：

長田東、南、川原地域は人口や高齢化率が違うと思うが、ネットワーク会議等を開きそれぞれ問題が違うところをお互い共有するようなことはあるか。

包括：

これは包括の会議で行っているわけではないが、長田圏域の 5 つの地区社協合同で行う会議が定期的にある。社協の生活支援コーディネーターが行う会議の中で、地区社協の課題として、何か福祉活動を検討したいと提案があって始まったのが年度末の『ごちゃまぜフェスタ』で、用宗の海岸の漁港で行うということを始めた。開催方法や内容を話し合い、お互いに協力し合いながら、実際にボランティアに携わっている方からあがつた課題の共有をしている。

<丸子地域包括支援センター>

包括：

重点項目一つ目は、総合相談支援事業の内容で「職員の事例を整理・把握する力の向上や介護支援専門員の支援を継続」することをあげている。毎朝ミーティングでケースの共有等を行うことや、地域ケア会議を適宜実施する。職員の異動などもあり、相談対応の経験年数が異なる職員となっている。どの職員が対応しても均一な対応ができるように、適宜みんなでケースの共有をしていく、勉強をしていくことで各対応能力の向上をはかっていこうと思う。地域ケア会議に関しては、相談の件数が例年増えている傾向で、相談内容が個人だけではなく、家族全体、世代が問題を抱えているという相談内容が増えているため、地域として増えている相談や地域課題を明確にしていくことを考えている。

二点目は在宅医療という点で、「地域の医療介護関係職種をつなぐこと」が挙げられる。自立支援プラン型を行っていくうえで、そこに参加している関係職種とケアマネを繋げることを意識的に行っていきたい。昨年度、自立支援プラン型を行っていく中で、地域の疾患として高血圧・高血糖が多く、特定健診の結果からもその2つの疾患の罹患率が高いことから、圏域内にあるクリニックの先生に高血圧高血糖について話をしていく勉強会を開催した。ケアマネからは「医師と会う機会があまりないため、このような会を開いてもらいありがとう」などのアンケート結果をいただいた。今年度はまだ計画の段階だが、疾患という点で認知症などを考えているため、歯という点ではケアマネが関わる機会が少ない歯科医師に声をかけ、そのような会議を行っていきたい。

三つ目は包括の周知という点をあげている。職員の異動などもあり、再度、地域の方に包括を知っていただくためチラシの配布をし、再度銀行や郵便局などに周知を行っていく。今年度民生委員の改正の時期で、民生委員にも再度包括ではこんなことをやっている等、包括について知っていただきたいたいと思う。

石野委員：

高血圧・高血糖の講座を医師や歯科医師にやっていただきて、地域住民の方々の意識は変わっているのか。

包括：

昨年度行った勉強会に関してはケアマネが対象となり、自立支援プラン型のケースの対応として高血圧・高血糖が多かったため、ケアマネ向けに行った。ケアマネだけでなく地域住民対象に行う話は上がっているが、まずは地域住民を支援しているケアマネとなった。そこと医師、歯科医師を繋げるという点でやっていると考えている。

石野委員：

この疾患については、継続的な介護予防の対応となり、まずは自身の行動変容、生活、食生活を変えていかなければならない。もちろんケアマネジャーの継続的な支援もとても重要だが、最終的には当事者の方々の行動が変わる取り組みに繋がることが大切だ。

望月委員：

相談件数が増えたということは、包括が皆さんの身近に感じていたと思うが、一般の方は包括の場所や名前は知っていても、電話するというのはとても勇気がいると思う。その時の対応は、第一声の時に温かい気持ちで受けてくださると相談ができる。対応は丁寧にしていると思うが、また相談してよかったですなと思えるようにより身近になってもらいたい。実際に私のきずなの会も電話の相談が年に400件近くある。包括やケアマネに相談しても、忙しいのはわかるが、忙しいながらも丁寧に気持ちよく受け止めていただいたら、きっと相談してよかったです。

土屋委員：

ケアマネジャーの立場から、医師とケアマネをつなげていただけると、包括がこのような主体性を持ってやっていただけてすごく助かる。協力してくれる先生方はみなさん協力的なのか。

包括：

昨年度は、最近できたクリニックの先生に依頼させていただいて、すごく協力していただける先生だった。近くに昔からの先生もいらっしゃるので、声をかけようと思う。

土屋委員：

ケアマネの立場から、医療機関はハードルが高い。顔の見える関係性作りがすごく助かる。

<大里高松地域包括支援センター>

包括：

重点項目一つ目として「地域住民や関係機関からの相談に対して対応する力を向上させる」をあげている。包括職員の入れ代わりは1人だけだが、全員の力がつくように、それぞれ職員が相談を受けた中でどうしていいかわからないような内容については、包括内での事例検討会を行うことを今後もしていきたい。複合的な課題については、関係機関と地域ケア会議を開催している。今年度はケース対応型の地域ケア個別会議を4月に2件、5月に1件実施している。複合的な課題が多く、1件は権利擁護が必要な市長申し立てに関して、もう1件目は入院時の身元保証がない方に関して、もう1件目は、身寄りなしの再犯防止という部分で、いろいろな関係機関に入っていただきて地域ケア会議を行っている。今後もその3番目のケースのように、いろいろな関係機関を活用して対応をしていきたい。

二つ目の「介護支援専門員と他機関と連携できる機会をつくる」ということで、介護支援専門委員が他機関の専門職と連携できる交流会や研修を行っていく。昨年度は八幡山包括とケアマネにやってもらっていた。今年度も考えた結果、ケアマネと年4回計画している。出欠を取らずに、年4回予定を立ていつでも来てもらう形となる。ゲストスピーカーに医療と介護の連携推進センターや、作業療法士に来ていただく回と、身元保証の方に来ていただく回と、バラエティーに富んだ形で始めるを考えている。民生委員がケアマネジャーと話をしたいということなので、会合のときにケアマネジャーに参加していただく予定です。

三つ目は「認知症であっても穏やかに生活できるように啓発を行う」で、幅広い世代に認知症に関する話を行うことや、認知症に関する地域と専門職のつながりを持つことが挙げられる。ご家族からの相談の中で、認知症に関することが1～2割となっている。ご家族が認知症の初めに戸惑いがあり、受診への繋げ方やご家族としてどう対応したらいいかなど、一緒に相談してどのような対応をすればよいかを考えている。圏域内にある南部図書館が認知症に力を入れて、今年度で3年目となる図書館職員向けの認知症サポーター養成講座を開催してほしいという依頼があるため、行う予定となっている。

包括ができたときから10年以上になると思うが、地区のお祭りに参加して、高齢者の方はすぐには止まないので自転車に乗るときには気をつける、などの子ども向けのチラシを毎年配っている。今回新たにリハビリ学級のお祭りにもチラシを配布してほしいということで、子ども向けのチラシなどを考えている。南部学区では、小学校との交流が地区社協であり、七夕会に包括も参加させてもらい幅広い世代にPRしていくと考えている。今日配布したチラシ3枚をそれぞれ配っていて、裏に担当地域が書いてある。登呂一丁目、二丁目、三丁目があり、大里高松包括は三丁目からになるため、専門職の方からも間違って連絡がある。一枚目は担当地区ではないこともあるとい

う内容、二枚目はS型デイサービスについて、三枚目は民児協に出るときに、それぞれの地区の相談件数を載せて配っていくためのものと、私どもの活動をPRしている。今年度も同じように活動をしていきたいと思う。

沼尻委員：

医療の精神科病院の立場から、今後の事業計画に、こころの健康センターを入れていただきたい。身元保証、成年後見制度や日常生活自立支援事業は、結構需要があると思う。経済的な基盤が整っていないといろいろなところに影響してくることは本当にあって、受診の相談があつた時点でお金の流れが不明、身元保証の人がいないなど、病院としても治療を受け入れることに戸惑ってしまう。冷たい言い方をすると、入院させてもお金が取れなかつたらどうしようとなってしまうため、きちんと整つていただけると介入しやすいところがある。難しいとは思うが、日常生活自立支援事業も後見も時間かかるため、早めに考え方始めさせていただいた後だと正直ありがたい。

包括：

成年後見の制度が必要な方や日常生活自立支援事業が必要な方を繋ぐような形でやっているが、日常生活自立支援事業の申し込みをしてから面談までに時間がかかったり、お金の管理が少しだけ難しい方に限つて自分でやるからいいと、面接までいってもキャンセルになることが多い。救急車を呼んで病院へ一緒に行って支払いができるのか、身元保証人がいるのか、ケアマネジャーのシャドーワークという話もあるが、包括もかなりシャドーワークがあり、病院への付き添いや、銀行に行って通帳の再発行などもある。また、病院に入院している方が何か取ってきてほしいと、病院の相談員からケアマネジャーに連絡があり、ケアマネジャーが自分たちだけで入れないと包括も一緒に自宅に入ることもある。私たちも力を尽くすが、病院と連携がとれたらありがたいと思う。

沼尻委員：

私も担当相談員として、本人のお金をおろすなどグレーゾーンのことをやりながら、包括や地域には関係ないから頼めないというケースがあり、皆様どこかしらそのように動いて少しづつ持ち出しながら何とか回っていると感じる。

<小鹿豊田地域包括支援センター>

包括：

重点項目一つ目は「地域住民の健康意識を高め、フレイル予防に繋げる」で毎年行つてゐる。配布したチラシの裏面に、認知症予防の第2弾で軽度認知症について記載した。地区社協の総会が3か所ありPR等を行つてゐる。S型デイサービスで、今年度も講座の依頼が来ている。まず一回目にはS型デイサービスで運動ができる方法を開催している。二回目は、昨年度の継続で明治安田生命から健康器具を借りて、健康相談会を行う。2月には、東豊田支部の高齢者部会の方から依頼があり、昨年は40名程の方が来ていただいた。好評のため今年度も行う予定でいる。三つ目は静岡ちやちやちやの後期講座を受けている方々の講師の依頼を受け行つてゐる。

重点項目二つ目は、地域の課題に対し、個別のケースや地域住民の意見等から対応しネットワーク形成を行う。こちらの方は地域ケア会議等を開きながら、ケース会議等を行う。精神疾患がらみ

の方の困難事例で数件なかなか解決しないものがあり、関係機関に繋げ連携しながら解決するという重層的支援をしていこうと考えている。

重点項目三つ目は、認知症予防と早期発見・早期対応を行う。国吉田公民館で6月に認知症カフェがあり、包括としてPRさせてもらい、話をしながら連携したいと思う。認知症の早期発見のため地域住民に向けての認知症のPRをしていく。

石野委員：

S型デイサービスから依頼が来ているということだが、どういった内容か。フレイルや介護予防などか。

包括：

内容はお任せと言われているため、包括から提示し決めている。毎年同じS型デイサービスから依頼があるため、提供できるものを伝え行っている。「介護予防の中で」、などのテーマの依頼もない。

石野委員：

市全体をあげて健康長寿というなかで介護予防、フレイル予防をやっている。早期の認知症予防として進められるのであれば、リハ職に依頼していただければと思う。小鹿豊田包括は、地域リハビリテーションセンターの済生会があるため、そこと連携していただければと思う。

包括：

リハビリの方と会議で話をしたが、仕組みはどうなっているのか。S型のデイサービスの中でやっていただけないかと話したところ複雑な仕組みで、その後話ができていない。

石野委員：

会議を開いて、話し合いをしてもらう中でお願いする機会もあるため、早めに予約していただきたい。お話をいただいたので、やらせていただきたいと思う。

包括：

心強い。これに対してはとても興味がある方が多いと思う。

石野委員：

1か月だと厳しいかもしれないが、2か月以上前に事前予約していただければ十分対応できると思う。

沼尻委員：

精神疾患がらみの困難事例みたいなものがあれば、どのような感じで対応しているか。

包括：

1 ケース目は 8050 問題の 80 歳の方が亡くなられ、50 歳の方が一人暮らしになった。80 歳の方にケアマネがいたがベッドが回収できず、連絡が取れなくなり、入れなくなるというケースだった。2 ケース目はマンションで母親と二人暮らしで、母親が亡くなられて、地域住民から苦情が出ていている 63 歳の方。みらいさんにも就労を通してお願いしたケースとなった。

沼尻委員：

皆さん病院はちょっと敷居が高い、特に精神科病院の敷居が高そうだと思われているのを承知しているが、みらいさんのように地域の精神障害関係の相談窓口もある。クリニックは厳しいがベッドのある病院だと相談員がいるため気軽に聞いていただけたらと思う。精神保健福祉士がいるため相談に乗れるかもしれない。

土屋委員：

ケアマネジャーの立場から、教えていただきたい。事業計画で、マンションの 1 階で勉強会をやっているグループのサポートを行うと書いてある。マンションというと孤立していて、実態調査もなかなか入れずまとまらない部分があると思うが、どのようにかかわっているのか教えていただければと思う。

包括：

昨年度、大きなマンションからの相談があり、それぞれのマンションでそれぞれの特色があった。一つは、個別のご相談から、マンション全体が同じような問題を抱えている高齢の方の相談があった。いずれは皆そうなっていくと危機感を感じたマンションの管理会社から相談をいただいたケース。もう一つはマンション全体が自治会から抜けるということで自治会から相談をいただいたマンションが二つある。自治会が成り立っているところと連携をさせていただいている中で、組織が成り立っているところと、初動のみのかかわりでその後はそれでコミュニティーをつくっていてマンションでの自助力があったところがあった。包括からマンションの住人の方に向けた相談会を開催させてもらった。

土屋委員：

そのマンションの主になる方を捕まえることが一番なのか。

包括：

管理会社の方であったり、自治会の方であったり、それぞれマンションによって違うため、いろいろな方々と話をしていくということになる。

<大里中島地域包括支援センター>

包括：

重点項目一つ目では、多職種連携のネットワークの維持、拡大を目指すとした。これは包括の大きな柱となっている業務、項目になる。ここ数年圏域内のケアマネジャー達の協力を得て、積極的

な活動になる会議に成長している。原則として主任介護専門員の会議の中で、地域内外の専門職やPT、医師はあまり来ないが、病院のスタッフや、管理栄養士等いろんな方々が参加し年4回開いている。春に1度開いたときに、今年の会を何回やる、その会ごとに主だった主任ケアマネジャー達に担当依頼しグループに分かれる、担当となったケアマネジャーに任せてどのようなグループにするかなど話し合った。例えば仲良しの方たちでグループになり、そのグループがテーマを決めて会議を開くという形や、近年聞かれる消費者被害については、そのグループで消費者被害についての勉強会や意見交換をして知っていただく。包括も場所の提供とバックアップをする。消費者被害に対してどのような方々に講師に来ていただくかなど、このような話し合いが効果的ではないかと、会議を開催できるような準備をしている。今年は、介護支援専門員のシャドーワークが全国的な問題になるところに焦点を当てた。ケアマネジャーの減少も全国的に激しく、ヘルパーなど介護職員の人数が減ってきており、ケアマネジャーがなぜなかなか増えないのか、減っていくのかというところで、業務内容、シャドーワーク、負担の大きさが問題で、私ども圏域の中でもしばしば話が上がっている。ケアマネジャーの会議でもシャドーワークに焦点を当て、大きくやっていこうと思う。市で行っているいろいろなボランティアについては、活用を目指し、生活支援コーディネーター、あるいは地域支援コーディネーター等と協力をしていきたいと思う。

二つ目の項目は、認知症の啓発活動となる。これは地域住民に対してと、ここ二年は児童向けに認知症サポーター養成講座を開催している。児童がとても素直で浸透するため、とてもやりがいがある。運営部会でもとてもいい取り組みだと言っていただき、今年も引き続き8月に予定が組まれたため、事業に向けて開催していく予定となる。S型の訪問は包括でも分担して、最低でも年1回すべての会場で認知症の講演を行っている。包括があるエン・フレンテという建物は1階にデイサービス、2階に包括とケアマネジャー、ヘルパーがいる。エン・フレンテの取り組みとして、認知症カフェを年10回毎月1回開いている。人手が必要で全員総出でやっているため、そのうちの2、3回を包括主催という形にしている。今年も主任ケアマネの会議に参加していただいている専門職の方や、自立支援会議に参加してくださっている専門職の方などのご協力のもと、住民向けの認知症予防講座を開催している。

三つ目のグループホームとの連携と協力体制の確立だが、圏域内のグループホームがいくつかあり、地域貢献に力を貸していただきたいと昨年の年度末くらいにやっと取り組めたところである。今年度も2回会議を予定して、今月も行う予定になっている。この会議でどういった方向で取り組めていけるのかを検討している。

朝比奈委員：

二つ目の地域住民に対する認知症の啓発活動の中で、児童を対象として認知症サポーター養成講座があるが、小学校の福祉授業の一環としてやっているのか。それとも、地域包括支援センター主催で認知症サポーター養成講座をされているのか。また、対象学年を教えてほしい。

包括：

教育の中に組み込むことはなかなか難しいため、児童クラブでやっている。大里西小の児童クラブで1回、中島小の児童クラブで1回、今回は大里西小で行った。主に対象は3年生以上で、あまり長すぎると集中して聞くことが難しいことや、おじいちゃんおばあちゃんのことをイメージする

ことが難しいため、45分から1時間程度で行っている。昨年は中島小で1年生から4年生で、すごく一生懸命に聞いてくださっていた。大里西小の子どもは、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいたり、近距離で住んでいたりして、福祉事業の施設があったり、働いている親御さんも多かったりするため、おじいちゃんおばあちゃんに対して理解があり、楽しくやっていた。

石野委員：

認知症サポーター養成講座の介護予防は、高齢者になってからではなく若いうちからというのは、子どもに意識付けするとしても大事なことだと思う。養成されたお子さんたちは高齢者の方々の接し方を覚えるなど、何か役割を披露するなどあったか。

包括：

今のところ特に役割はないが、こうやって広げていくこともいいかと思う。何かの時にちょっと手伝ってもらうなど、繋げられたらと思う。中途半端になるかもしれないが、職場実習で大里中からも来ている。エン・フレンテ1階のデイサービスで認知症カフェもやっているため、認知症カフェではこんなことをやっているのかと参加してもらいたいと思う。

岸山会長：

少しまだ時間があるため、全体で何かご質問ご意見等ある方、委員の皆さん、もしくは地域包括支援センターの皆様から何かありましたらどうぞ。

長田包括：

しづおかちやちゃちやの事業について、長田包括に高齢者の実態を聞き取りをしたいと、介護予防事業を担当する市の部署と実施する話があり、大阪の事業者さんが入りたいということだった。力を入れてやっている事業で、時々まちのイベントなどでコーヒーの会の方がコーヒーを入れてくれ、そこでコーヒーをいただいたことがある。地域の方がどこまで知っているのか、事業を終えた後に、どうやって活動を広げているのか、皆さんの中で、知っている情報など教えていただきたい。ちなみに小鹿豊田包括は、どんな形で提供しているか。

小鹿豊田包括：

S型デイサービスで情報を提供していただきたいと今お願いしているところ。一番初めはちやちやちや自体を、その時の課題だったマンションの住民の方に向けてPRしてほしいという話から、地域包括ケア推進課の方といろいろ話を聞いてつながりができている。介護保険にまだまだつながらない元気な高齢者がちやちやちやに参加しているということで、包括の方は介護保険にからんでくる高齢者の方がどうしても多いため、元気な高齢者が頑張っている姿を少し上の高齢者の方に見てもらうことで活性化につながるかと思う。講習を受けた方々が卒業後に活躍できる場をという話を受けたため、コーヒーを淹れて雑談をしながら、その後の介護予防やフレイル予防で運動を取り入れていくことや、交流や楽しみにつながっていけたら、いい形で活性化に繋がっていくのではないかと思っている。

岸山会長：

私はしづおかちやちゃちゃんを知らなかった。どうしても介護が必要になった高齢者の方にはいろいろな支援の手があるが、その前の段階の人にとってはなかなかないため、いい取り組みだと思う。少しでも介護が必要になるまでを遅くできればよいと思う。

地域包括ケア推進課：

しづおかちやちゃちゃんの事業について、地域包括推進課の企画係が担当していて、包括には連絡会のなかでお伝えさせていただいた。市としても広報に載せている。事業について、例えば宝塚の方を呼んで発声練習をしたり、ヨガ、ベルテックスの応援に行ったり、ゲーム体験などいろんな分野がある。その中で男性の参加が少ないため、男性限定で「本気のコーヒー」を開催しているところがある。男性はそこにはまると突き詰める方が多く、ご自身で道具をそろえてお互いにうんちくを語り合うこともある。女性はおしゃれをしながら先生の言うとおりにやっていて、特徴があつて面白いということも聞いた。静岡まつりでもブースが出ているが、今後いろいろなイベントでやつていく予定だ。参加した方とそうでない方と、介護予防の効果がどれほど出ているのか追っていく予定で、3年計画が終わったときに成果はお伝えできると思う。また、広報はしていくと思うため見ていただければと思う。